

目次

[今週号は 5 月 31 日時点の情報を基に作成しています]

投資コラム : 「米中貿易戦争と消費増税」	1
日本株銘柄情報 : ペプチドリーム (4587)	2
日本株銘柄情報 : SCSK (9719)	3

「米中貿易戦争と消費増税」

坂瀬 勝義

アベノミクスとは、ひとことでいいますと「円安、輸出企業優遇政策」といえます。金融緩和で円安方向に誘導し、輸出企業の利益を増大させることにより設備投資が進むことで株価を上昇させる政策です。それによりインフレ傾向に導き景気を上向かせるというオペレーションです。同時に、金融緩和が個人消費も刺激すると期待されていましたが、残念ながら結果的にはそれは実現できていません。アベノミクスがここまで輸出企業優遇政策を押し進めるのも、本音では、消費増税を念頭に置くと個人消費の増大による資産効果は見込めず、それに景気回復のエンジンはゆだねられないと考えた結果だと想像できます。

過去 2 回の消費増税の場面では、意外にも株価は下落していません。これまでは輸出と設備投資が、消費の低調を補ってききましたので、株価はそこを評価してきたからです。その意味ではアベノミクスの戦略はすべて間違っただけではなく雇用改善など評価できるものもいくつかあります。最近の株価の停滞も、その踊り場だと考えればそこまで深刻にとらえる必要もなかったといえます。

しかし、今回は米中貿易戦争という外患がある

おかげで楽観視することはできません。米中貿易戦争は単に経済的な覇権争いではなく、安全保障を含む政治的なバランスゲームが根本にあるので簡単には収まらず長期化することが予想されます。したがって、現状では自動車や海外比率の高いハイテクや機械関連株に期待するのは難しいといえます。輸出関連が強い「日本株」という括りから捉えると、これは危機的なことだといえます。それに付帯する設備投資にも期待できません。今後、消費増税と合わせて、米中貿易戦争が長引くと株価に厳しい場面があるかもしれません。

しかし、悲観ばかりではなく期待できることもあります。このさなかにも伸びている業種はあります。国内のシステム投資の分野です。AI などの発達により複雑化したソフト開発の需要は急速に伸びています。たとえば自動車メーカーの開発費の半分はソフト投資に振り向けられているといえます。それに絡む 5G 関連投資にしても来年以降から本格化することも予想されます。また、テーマ性のある新興小型株は相場状況に関わらず物色される傾向もあります。今後これらの銘柄が突発的に売られる場面があれば、投資を考えてもよい場面ではないかと思えます。

ペプチドリーム (4587)

アナリスト 横山泰史

株価指標

株価 (2019/5/31)	5,410円
売買単位	100株
市場	東証1部
時価総額	6,714億円

<業績の推移>

決算期	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
2017/06	4,895	2,490	2,624	1,890	16.5	0.0
2018/06	6,426	2,910	3,154	2,335	19.3	0.0
2019/06予	7,200以上	3,300以上	3,600以上	2,600以上	20.9	0.0

単位:百万円 (1株利益、1株配当は円) 予想は会社予想、1株利益は日経予想

<投資指標>

今期予想PER	257.9 倍
PBR	43.8 倍
予想配当利回り	- %

ペプチド医薬品の開発に従事

ペプチドリームは自社で保有する特殊環状ペプチド技術を提供することにより、他の製薬会社と新薬の共同開発を進める創薬ベンチャー企業です。医薬品は分子量の大きさから低分子医薬品、高分子医薬品などと区分されますが、特殊ペプチドは低分子医薬品と高分子医薬品の中間にあたる中分子医薬品として位置付けられます。低分子医薬品は開発費が比較的安価ですが、分子量が小さいことから病原に辿り着くまでに体内の至る所で吸収され効率的ではありません。一方で、高分子医薬品は効果が高いのですが高額となります。中分子医薬品は両社の欠点を補うものとして期待されています。ペプチドリームは2018年末には33社とパートナー提携を結んでいます。ペプチドリームにとって、契約時に受け取る契約一時金、開発の進捗によって受け取るマイルストーン収入が主な収入源です。創薬の共同研究開発だけでなく、自社創薬にも取り組んでいます。

ペプチスターの稼働による原薬の安定供給で事業拡大に弾み

今後の事業展開については、ペプチドリーム、INCJ、塩野義製薬などが出資して、特殊ペプチド原薬の受託製造を行うペプチスターの本社研究棟が完成しました。今年秋にはペプチスターの製造棟も完成する計画ですが、ペプチドリームにとってペプチスターが本格稼働する事により、特殊ペプチド創薬の臨床試験にとってボトルネックであった原薬の安定供給が可能となる見通しです。このため、今後の事業拡大には大きな弾みがつくことが予想されます。

上場来高値の更新が視野

ペプチドリームの株価は今年5月7日に調整後の上場来高値となる6,200円をつけた後、足元の株価は上場来高値から10%以上下落した水準で推移しています。

今後の株価見通しについては創薬の世界において、特殊ペプチドを用いた薬のプラットフォーム（基盤）としての立ち位置が進むことによって、上場来高値の更新も視野に入るものと見ています。



SCSK (9719)

アナリスト 阿部 哲太郎

株価指標

株価 (2019/5/31)	5,250円
売買単位	100株
市場	東証1部
時価総額	5,469億円

<業績の推移:連結>

決算期	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
2018/03	336,654	34,602	36,291	32,488	313.0	95.0
2019/03	358,654	38,378	38,650	27,892	268.6	100.0
2020/03 予	380,000	41,000	41,000	28,000	269.7	130.0

単位:百万円 (1株利益、1株配当は円) 予想は会社予想によります。

<投資指標:連結>

今期予想PER	19.5 倍
PBR	2.8 倍
予想配当利回り	2.5 %

ITサービス大手

SCSKはITサービスの大手です。旧住商情報システムが旧CSKを吸収し誕生しました。車載や金融、流通向けなどに強みを持ち、8,000社以上の取引先との関係を構築しています。近年では保守サービス運用に注力し、従来のソフトウェアの売り切り型から月額課金型へのシフトを進めています。国内企業は人手不足や効率化の為のIT投資が喫緊の課題となっており、業界全体で需要が伸びる中で当社にも恩恵が続いています。

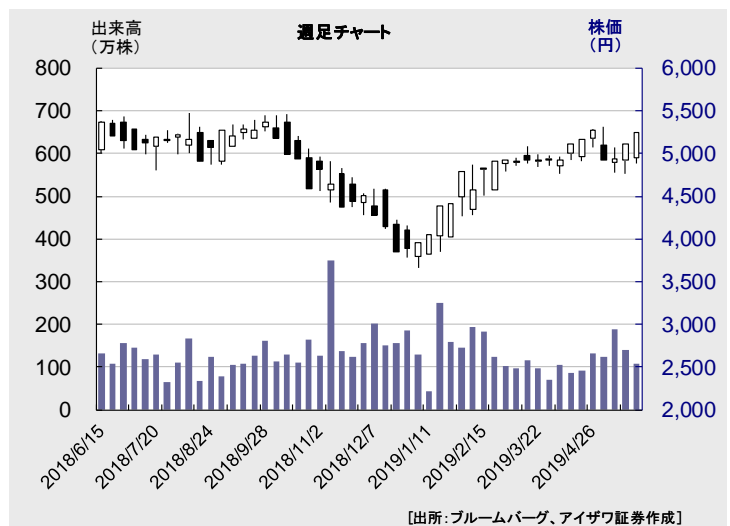
車載システムに強み

同社は車載システムに強みを持っており、日系自動車メーカー向けに30年以上前から車載システム開発を手掛けてきた実績があります。足元の需要サイドではADAS(先進運転支援システム)やEV(電気自動車)など自動車に搭載されるソフトウェアの量は搭載されるソフトのプログラムの行数は以前の10倍にも増えています。

一方、供給サイドでは車載ソフトウェアのプログラマーが慢性的に不足しており、自動車のソフト業界は活況が続いています。自動車メーカーは車載ソフトウェアの開発効率化のため、欧州発の共通標準規格である「AUTOSAR(オートザー)」などの導入も少しずつ進めて対応しており、同社はこれに関連した基幹ソフトウェアなども手掛けています。

連続最高益見通し

国内企業のIT投資意欲の高まりから前期2019年3月期は売上高が前年比6%増収、営業利益は同11%増益と最高益を更新しました。先行きの売り上げの水準を示唆する受注残高は同17%増加と大きく積みあがっています。今期会社予想は売上高前年比6%の増収、営業利益は7%の増益を見込んでおり、今期も最高益を更新する見通しです。車載や金融、流通向けなど様々な業界でIT投資の引き合いはさらに強さを増しており、業界全体として追い風が続く見込みです。日本株相場全体は調整色となるなか、外部環境の影響を受けにくい内需の好業績銘柄として物色が続くともっています。



本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

金融商品取引法に基づく表示事項

- 本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等
- 商号等： 藍澤証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第6号
(本社) 東京都中央区日本橋1-20-3
- 加入協会： 日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会
当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関
： 特定非営利活動法人
証券・金融商品あっせん相談センター (略称：FINMAC)

株式投資の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

お客様にご負担いただく手数料等について

取引口座に応じて以下の委託手数料(税込)をいただきます。

- ・ 対面口座：約定代金に対し、最大1.2420%を乗じた額
(ただし最大147,150円、約定代金が217,391円以下の場合は、2,700円)
- ・ インターネット口座「ブルートレード」
インターネット発注：最大1,620円、
コールセンター発注：約定代金が55万円以下の場合は1,620円、
約定代金が55万円超の場合は3,240円。
- ・ コンサルティングネット口座「アイザワプラス」
インターネット発注：最大4,860円、
コールセンター発注：約定代金に対し、最大0.9936%を乗じた額
(ただし最大117,720円、約定代金が489,130円以下の場合は4,860円)

アイザワ証券 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはアイザワ証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。